

# 江戸川河口だより

国土交通省関東地方整備局  
江戸川河川事務所  
江戸川河口出張所発行  
電話03-3679-1460  
2008年04月12日【号外2号】

えどがわすいこうもん

『江戸川水閘門』は 第二次世界大戦中に造られました  
皆さんの飲み水を確保するために活躍しています

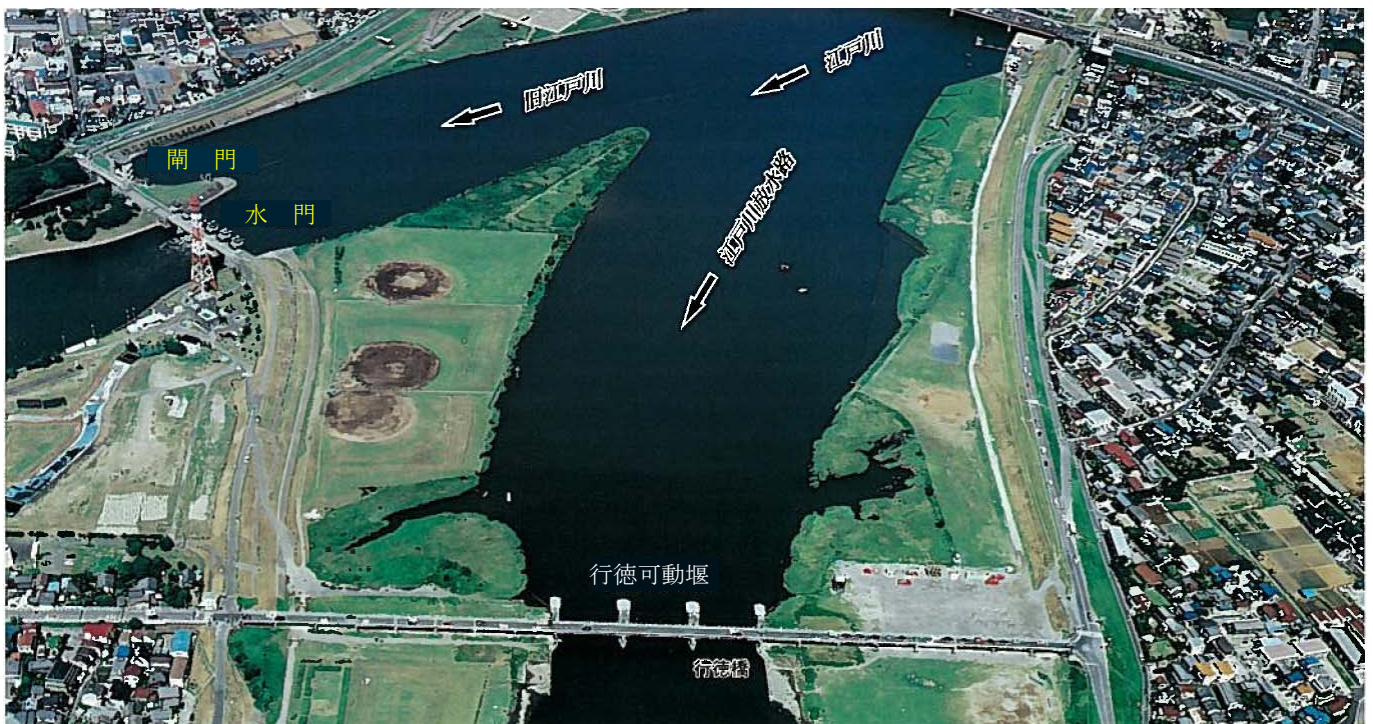


江戸川水閘門全景

江戸川水閘門(えどがわすいこうもん)は、旧江戸川を仕切る水門(旧江戸川河口から9.3km地点)と船を航行させるための閘門から出来ており、東京都江戸川区東篠崎町と千葉県市川市河原の間に造られています。

昭和11年6月工事に着手し、戦時中の昭和18年3月に完成しています。水門の造られる前の江戸川では海水(塩水)の影響が約17km上流の流山橋付近までであると言われていました。この施設により塩水遡上を防止し、金町浄水場など複数の取水施設が安定的に取水できるように、江戸川河川事務所では、365日水門の操作管理を行っています。

この江戸川の水は、群馬県、栃木県などの水源から多くのダムに溜まった水が、水量調整されて流れてきています。この区域(流山橋から下流)の水道水は、首都圏内の**1,000万人**を超える国民の皆さんの生活用水として利用されています。



江戸川と旧江戸川の分派地点

# 水門は塩水が上るのを防止し 閘門は船の通行を行う施設です

## 水門の紹介



### 水門とは？

この施設は、海面の潮位により塩水が上がってくるのを防ぎ、上流から来た水をスムーズに流すための施設です。

幅10m高さ5mのゲートが5門あり、鋼製の引上式ゲートです。操作は、江戸川河口出張所4階の操作室から遠隔操作で行っています。築造されてからすでに65年も経過し、昭和40年代から地盤沈下等もあり、水門脇を通行していた車両も通行止めとなっています。

当時の基礎杭は、12～13m程度の松丸太が使われており、老朽化も進んでいるようです。

### 閘門とは？

この施設は、旧江戸川から上ってきた船を上流の江戸川に、江戸川の上流から来た船を旧江戸川に通行できるようにした施設です。

船が通行して良い時間帯は、朝の5時から夜の10時までとなっていますが、朝の6時から夕方の6時以外に通行したい場合は、事前に連絡を頂いています。

(照明灯等の準備があるため)

通行可能な船の大きさは、幅8m長さ50mとなっています。水門の操作と併せ、2人の操作員が常駐しています。

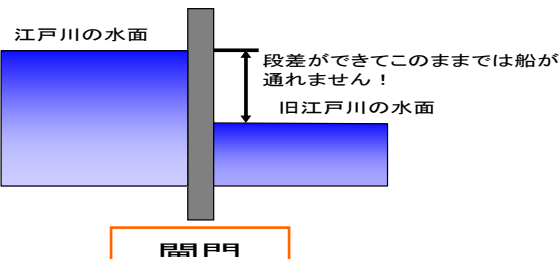
## 閘門の紹介



### 閘門(こうもん)の仕組み

江戸川の水は皆さんの飲み水として利用されています。行徳可動堰と江戸川水閘門は、海から塩水が江戸川へ流れ込むのを防止するために設置された施設です。この施設がないと、金町浄水場や栗山浄水場で飲み水を作ることは出来なくなります。ここでは、閘門の仕組みを紹介します。

その結果...



こんな時に船の通行を可能にするために「閘門」(こうもん)が設置されています。

#### 閘門の仕組み

